



国際交流員の活動日誌

vol.78



「次の章へ」

The Next Chapter

英訳版を見る▶



8月末に退任する僕が書く活動日誌は今回で最後になります。5年間で約50回、その他、市のホームページに掲載している活動日記や月館学園の昼休みの放送など、これまでたくさんの方の原稿を書いてきました。皆さまには僕が書いた文章を読んでいただき心からの感謝を伝えたいです。

伊達市に来る前、学生の頃は、課題として論文などを書いてきましたが、読んでくれる人は先生ぐらいでした。国際交流員として書いた文章はより多くの方が読んでくれて褒めてくれた方もいました。それが自信になり、文章を書く能力を皆のために使うべき

だと強く思うようになりました。義務感に苛まれ眠れない夜が続くこともありましたが、2020年12月、思い切って執筆を始めました。仕事を終えた平日の夜も週末も家にこもって執筆しました。コロナ禍では健康を守ることにつながったかもしれません。

ほぼ3年かかりましたが、今年7月に最初の小説を書き終えました。まだまだ修正が必要ですが、年内に大手企業のサイトで電子書籍として出版する予定です。期待はしていません。10人読んでくれると大満足です。

9月に桑折町に帰り、桑折と伊達のそばん教室で英語を教えますが、空き時間にまた執筆します。伊達市在留中にできた習慣ですが、生涯続けたと思います。改めて僕の文章を読んでくれた皆さまに心より感謝いたします。

伊達市民の皆さん、これまでありがとうございました！

(トニー)

地域の魅力 ふる里再発見

大正時代の呉服店チラシ

令和5年度第1回企画展

亀岡正元家文書の世界

9/25(月)まで

伊達市保原歴史文化資料館

伊達市教育委員会では、令和3年度に「伊達市収蔵資料目録第1集 亀岡正元家文書」を刊行しました。目録には、江戸時代の文書8点、明治・昭和時代の文書4755点を掲載しています。

伊達市保原歴史文化資料館では、この目録を活用した「令和5年度第1回企画展 亀岡正元家文書の世界」を開催中です。今回は分類項目「3.産業」から、当時の世相がわかる展示資料2点をご紹介します。

下記のチラシは、福島市大町に店舗をかまえた喜多三呉服店（作曲家古関裕而の実家）のものです。内容は初夏呉服の売り出し案内についてです。時代は不明ですが、喜多三呉服店は大正11（1922）年廃業のため、大正時代と考えられます。

このほか、写真は載せていませんが、大正2（1913）年6月15日に中村合



◀喜多三呉服店の広告

名会社呉服店（後の株式会社合）から郵送された夏物呉服案内があります。中は、この年に福島市荒町から大町に移転しました。これらの資料から、大正時代の福島市の商店が、伊達・信夫郡を中心に販売経路を広げていたことがわかります。

亀岡家の人々は、当時これらの広告を何気なく保存したのかもしれませんが、きれいな状態で後世に受け継がれた結果、当時のこの地方の様子を示す貴重な資料となったのです。